鉾立や荒縄道にどかと置き　小川もも子
次々と鉾立ちあがる大路かな　真鍋倭文子
長刀をゆらして鉾の立ちあがり　太田芳男
慈雨ならん鉾建の縄よくしまり　同
鉾建や花背の榊はこばれて　中村汀
鉾建つる蘇民将来子孫とぞ　同
鉾建や縄結ふ人の玉の汗　上田悦子
而して鉾立ちにけり今年また　薮本文子
縄一本ゆるりと鉾は立ちにけり　澤田美那子
鉾建やかはらぬ手順今年又　同
芳しき新縄締めて鉾立ちぬ　岡田忠孝
行きずりの人も綱取り鉾立ちぬ　鎌倉英二
鉾建や平針に縄通しては　清田喜代子
鉾立や頭に巻いて豆絞り　山本華子
飴色の木槌かろがろ鉾立つる　同
鉾の中の長刀鉾や立ちにけり　長谷川櫂
町ぢゆうに鉾立つ雨の晴間かな　同
鉾立や背にかけて縄ひきしぼり　同
鉾立や縄の切屑ちらばれる　同
炎天に鉾を建てねばならぬかな　同
炎天や鉾次々と建ち上がる　同
鉾建つや諸国の美田青々と　同
長刀を振りてよき鉾立ちにけり　同
三日月をかかげよき鉾立ちにけり　同
立ちならぶ鉾をよろこび燕とぶ　同

【鉾組む】

かろやかな木槌の音や鉾を組む　田中政子
百丈の縄の束据へ鉾を組む　田宮尚樹
鉾組むや縄もて縄をしごきつつ　中村汀
鉾組むや大槌の音ひびかせて　同
組み上げし鉾を抜けては雀飛ぶ　長谷川櫂

【鉾起す】

仰向けて長刀鉾を起しけり　長谷川櫂
長刀を揺るがせて鉾起しけり　同

【山建】

山建てや松揺れながら町の空　長谷川櫂

【鉾蔵】鉾倉

鉾倉を開く祇園の祭かな　太田芳男
鉾の蔵がらんとなりて涼しさよ　本橋康子
鉾蔵や壁に立てかけ大車輪　中村汀

鉾倉へ氷一塊運びこみ　山本華子
鉾倉に手枕をして三尺寝　同

【鉾頭】

雲ふれんばかりに揺れて鉾頭　川村玲子
朝の日や錦でつつむ鉾頭　中村汀
立ち上がり日輪の辺へ鉾頭　同

【鉾柱】真柱

錦まくやうに縄まく鉾柱　岩根壽美
寝かされて龍のごとしや鉾柱　安藤久美
鉾柱揺れて洛中揺れにけり　山田寿美子
むくむくと夜の雲湧き鉾柱　北側松太
ゆふしでの榊涼しや鉾柱　長谷川櫂
花つけし榊をさはに鉾柱　同

【鉾の車輪】

金色の鉾の名ゆゆし大車輪　山田寿美子

【鉾飾】

樟脳の匂ひ幽かや鉾飾　深沢孝位
まだ青き藁もて鉾を飾りけり　小川もも子
胴懸けの瀑布のごとく懸かりけり　中村汀

【鉾の宿】

振舞茶合点用意や鉾の宿　木下洋子

【鉾人形】

鉾人形奥の蔵より出してきし　木下洋子

【裸鉾】

ひと雨を浴びて清しや裸鉾　植田房子
まつさらな縄の匂へり裸鉾　岩根壽美
長刀鉾まだ裸なる大路かな　小川もも子
縄の香をまとひて涼し裸鉾　上田忠雄
新縄の切り口熱し裸鉾　安藤久美
裸鉾はうきの音の清やかに　同
新縄で締めてすがしや裸鉾　長谷川櫂
きりきりと縄で締めあげ裸鉾　同

【神輿洗】

神輿洗ひ大松明が先づゆけり　木下洋子
雷の囃せる神輿洗ひかな　同
吾も受く神輿洗ひの一雫　本橋康子
加茂の水飛ばして神輿洗ひけり　同
鳴神を祓ひて神輿洗ひかな　上松美智子
しぶき上げ神輿洗ひの大榊　山本華子